

令和4年度 第1回 野田市まち・ひと・しごと創生専門委員会議 次第

1 協議事項

地方創生応援税制に係る地域再生計画の効果検証について

野田市まち・ひと・しごと創生専門委員

「委員名簿」

	団体名	委嘱予定者	備考
1	千葉県行政書士会東葛支部	伊佐 智	
2	学校法人東京理科大学	内山 久雄	議長
3	野田市自治会連合会	五味 良仁	
4	野田商工会議所	高須賀 晴子	
5	野田市農業振興審議会	箱森 弥生	
6	千葉銀行野田支店	福田 健二郎	人事異動による変更
7	連合千葉東葛地域協議会 野田・流山地区連絡会	西尾 健太郎	

※五十音順

【令和3年度 地方創生応援税制を活用した事業の検証】

資料2

事業の名称	生物多様性をキーワードとする野田市の魅力発信事業										
事業の概要・目的	<p>野田市の自然再生、生物多様性のシンボルであるコウノトリの保護増殖、野生復帰の推進に引き続き取り組むにあたり、「生物多様性」を野田市の魅力発信のキーワードとした市民参加によるシティプロモーション事業に取り組む。豊かな自然を再生、創出する野田市の取組等の市の魅力を市内外の人に知ってもらうため、市民参加による野田市の魅力発信事業を実施する。</p> <p>また、都心から30km圏内にありながら、生物多様性の取組により豊かな自然のもとで生活できる野田市として情報発信を行う。これらにより、若者世代の転出抑制、転入人口の増加、交流人口の増加を目指す。</p>										
実施内容（寄附金を充当する経費内容）	地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)を活用し、企業等より受けた寄附を、地域再生計画における事業費に充てることとしており、令和3年度は、生物多様性をキーワードとする野田市の魅力発信事業の補助金の一部として活用した。										
重要業績評価指標	指標	目標値 (単位：人)					実績値 (単位：人)				
		R2	R3	R4	R5	R6	R2	R3	R4	R5	R6
	人口の社会増数 (転入者－転出者)	510	520	530	540	550	581	654			
事業の効果	<p>毎年度、市民からの企画により実施する魅力発信事業については、令和2年度に市民や団体などから23件の提案があり7事業の実施を決定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和3年度に延期したものの、感染症拡大の影響もあり決定した7事業のうち5事業の実施となった。また、継続事業である野田市の自然豊かな魅力を発信する「市内草花広報」で紹介した植物の図鑑を作成し市内の小中学生に配布した。</p> <p>野田市は、みどり豊かな自然環境を次世代につなぐため、自然と共存する地域づくりを進めており、自然再生のシンボルであるコウノトリを野田市に定住させるため木間ヶ瀬地区及び江川地区に人工巣塔を建設した。木間ヶ瀬地区の記念行事は野田市立木間ヶ瀬小学校の児童が大空に風船を飛ばす「バルーンリリース」を行い、その様子はメディアでも取り上げられた。コウノトリが生息する環境は、人間にとっても安全・安心で健康な暮らしができる環境であり、こうした野田市の魅力発信に繋がった。</p>										
実績を踏まえた事業の今後について	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により延期となった事業について、今後新たに実施することにより、野田市の魅力を発信し続けていく。</p> <p>また、コウノトリが生息する環境は、人間にとっても安全・安心で健康な暮らしが出来る環境であり、この魅力をさらに広めるため、ガバメントクラウドファンディングを活用した投稿型GISシステム事業（市民が野田市の魅力である植物をアプリの地図上に投稿できるシステム）を進めるとともに、野田市内の小中学生を対象とした生物多様性フェスタを開催する等、多方面から野田市の魅力を効果的に発信していく。</p>										

【令和3年度 地方創生応援税制を活用した事業の検証】

資料3

事業の名称	農産物ブランド化推進事業										
事業の概要・目的	みどり豊かな野田市を守り引き継ぐために取り組んでいる環境保全型農業の一環として、農薬や化学肥料に極力頼らない米作りを目指し、病気に負けない強い稲を育てるといわれている玄米黒酢農法を参考にした、野田市独自の「黒酢米」の米作りを市内全域で推進する。そのために、予算の範囲内で、野田市農業資材対策協議会へ、玄米黒酢農法を利用した特色のある水稻生産に取り組んでいる地区に対する黒酢の空中散布に要する経費の補助や、野田市農産物ブランド化推進協議会へ、野田産農産物の広報啓発活動の実施に要する経費の補助を行う。引き続き環境にやさしい農産物として他産地の米との差別化を行い競争力強化を図り、黒酢米のブランド化を進めることで農家所得の向上を目指す。										
実施内容（寄附金を充当する経費内容）	地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を活用し、企業等より受けた寄附を、地域再生計画における事業費に充てることとしており、令和3年度は、生物多様性をキーワードとする野田市の魅力発信事業の補助金の一部として活用した。										
重要業績評価指標	指標	目標値 (単位：千円)					実績値 (単位：千円)				
		R2	R3	R4	R5	R6	R2	R3	R4	R5	R6
	黒酢米の売上 (反収×単価×作付面積)	608,000	616,000	624,000	632,000	640,000	642,508	459,494			
事業の効果	平成21年度に260haで始まった黒酢米栽培は、令和3年度には約507haまで取組面積が拡大し、市内の水田の約半分を占めている。農協も黒酢米のブランド化に積極的に関わっており、黒酢米せんべいや米粉麺などの関連商品を開発、販売し、好評を得ている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により学校の臨時休校や飲食店の臨時休業等が増加したため、全国的に米余りが深刻となり、農協の買取価格も引き下げられた。結果として実績値は目標値を下回ったが、一般米と比較すると1俵あたり1,000円程度高く買い取られており、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響による農家所得の減少軽減にも効果があったと考える。										
実績を踏まえた事業の今後について	ブランド化の課題については、商品を発信するにあたってやみくもに地域ブランドと謳って宣伝するだけではブランドとして広く認知されることは難しいものであり、例えば定番化やプレミアム化といった目指すべき方向性を定め、それに見合った品質と数量の確保が重要となる。また、黒酢米は農協や各米農家の売り込み努力により、農協以外での取引においても一般米より高値で取引されていることから、一般米より少しプレミアム感のあるお米として評価を確立していきたいと考えており、そのための行事等を活用したPRや売り込みを引き続き実施していく。										

野田市の人口動態について

(単位:人)

	総数		社会動態			自然動態			総増減	
	外国人	年齢構成	転入	転出	増減	出生	死亡	増減		
平成29年	154,784	2,725	18,763 90,635 45,386	5,493	5,047	446	867	1,579	▲ 712	▲ 266
平成30年	154,727	3,016	18,473 90,027 46,227	5,790	5,200	590	871	1,518	▲ 647	▲ 57
令和元年	154,373	3,385	18,015 89,476 46,882	5,649	5,151	498	794	1,646	▲ 852	▲ 354
令和2年	154,140	3,699	17,701 88,948 47,491	5,685	5,104	581	856	1,670	▲ 814	▲ 233
令和3年	153,807	3,755	17,246 88,722 47,839	5,646	4,992	654	800	1,787	▲ 987	▲ 333

※人数については各年年末現在

上段:年少人口(0~14歳)
 中段:生産年齢人口(15~64歳)
 下段:老年人口(65歳以上)